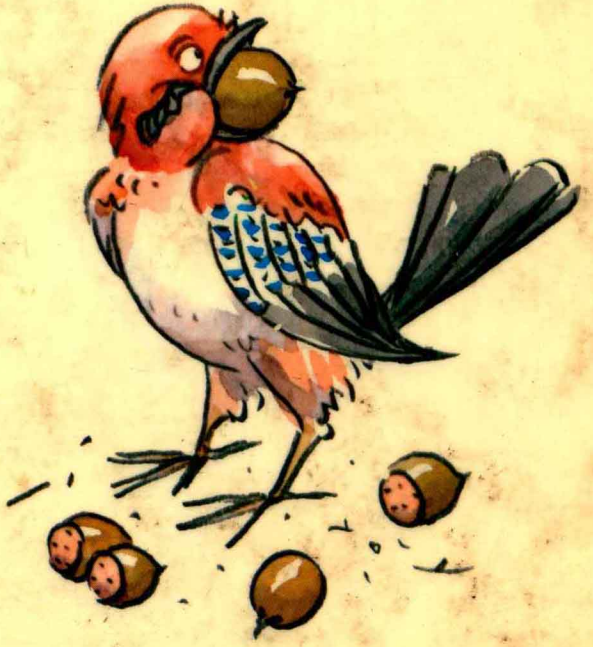
全国学校図書館協議会 選定図書　　小学校低学年むき

小学館の創作童話シリーズ

かけすとかしの木

平井芳夫
津田櫓冬・画



小学館

●平井芳夫（ひらいよしお）

小学校の頃から酒屋さんの手伝いを皮切りにアルバイトをしては学資を貯めて、次々と商業学校から師範学校・明大文芸科へ進まれた。昭和13年小学館に入社。21年退社して文筆一本の道に。

この本のお話は、小学生の頃聞いた話をもとに作られたので50年来あたためておられたことになる。小鳥や雑草を愛され、目下、つくしの移植を研究中という先生には、まさにぴったりの素材で、詩情ただよう作品となっている。

明43・8・26　東京四谷生。

すまい　埼玉県浦和市本多町2～28～26

●津田櫓

風光明眉な[illegible]山の懐に抱かれて育ち、たこ、いか、なまこ、きのこなど、生（なま）で食べるものが好き、という根っからの自然愛好者。ペンネームの櫓冬（本名は宏）は和船の櫓（ろ）をよく漕がれ「海は母親のふところ」と言う心情にも由来するもののよう。この作品でも、自然を愛し、写生旅行にしばしば出かけた成果がうかがえる。

昭14・2・1　京都美浜生。東京芸大芸術学部工芸科卒。

おしごと　『おばあさんのゆめ』『おいしいみずのぼうけん』『駅長さんの話』

すまい　東京都調布市富士見町3～21　調布富士見住宅1～502

装丁　長野博一

★姉妹シリーズ《小学館の創作民話・創作理科シリーズ》もどうぞ！

小学館の創作童話シリーズ　㉒〝かけすとかしの木〟　平井芳夫　津田櫓冬・画　©1975小学館

昭和50年10月25日初版第1刷発行
昭和53年4月1日初版第3刷発行　発行所　株式会社　小学館　東京都千代田区一ッ橋2－3－1　〒101
編集兼発行者　相賀徹夫　印刷所　図書印刷株式会社　東京都港区三田5－12－1

☎東京03－230－5540（代）編集
☎東京03－230－5333（代）製作
☎東京03－230－5739（代）販売
振替　東京8－200

※製本には十分注意しておりますが、万一不良品がございましたら、おとりかえします。NDC913 44P　20×16cm　Printed in Japan
※本書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となります。予め小社あて許諾を求めて下さい。

小学館の創作童話シリーズ

かけすとかしの木

平井芳夫
津田櫓冬・画

小学館

にわの　かきの木の　てっぺんで、さっきから、
じえーっ
じえーっ
と、かけすが　ないて　いました。
いえでは、おかあさんが　あかちゃんを
ねかしつけて　いる　ところでした。
「まあまあ、うるさい　とりだこと。」
おかあさんは、そう　いって、
そっと　しょうじを
しめました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

おばあさんが　でて
きました。せんたくものを　とりこみながら、
「しーっ、しーっ。かけす、あっちへ　いけ。
うちの　ぼうやが　目を　さまして　しまうわい。」

おばあさんに　しかられて、
かけすは　山へ　とんで　いきました。
ゆうやけ
こやけ
日が　くれる
山では　きこりの　おじさんが、
ずいーこ
ずいーこ
のこぎりで　木を　ひいて　いました。

日が、山の　はしに　ちかづきました。
かぜも　さむく　なりました。
「さあ、もう　しまうと　するか。」
きこりの　おじさんが　しごとを　やめても、まだ
どこかで　木を　ひく　おとが　して　います。
ずいーこ
ずいーこ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「おや、だれだろう。」
きこりの　おじさんが、
「おーい。」と　よぶと、ばさ、ばさっと、
木の　えだから　かけすが　とびたちました。
「だれかと　おもったら、なあんだ、かけすか。
あいつは　ものまねが　じょうずだからなあ。」

きこりの　おじさんが　かえった　あとに、
かしのみが　いっぱい　おちて　いました。
かけすの　だいすきな　かしのみです。
「あ、ここにも　ある。あそこにも　あるぞ。」
かけすは、かたい　からを　くちばしで　わって、
中(なか)の　みを　おなか　いっぱい　たべました。

「ああ　おいしかった。もう　たべられないや。
そうだ、これを　うちへ　もって　いって、
こどもたちに　わけて　やろう。」
かけすは　かしのみを　くわえました。
そして、からだを　かがめて、ぱっと　空に
とびたちました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com